

特集



モンゴルの博物館に展示されているディノケイルスの両腕

巨大な腕。左と右だけ。今から50年以上前の1965年、ゴビ砂漠西部で発見されたのはそれだけでした。それをも

恐竜調査隊が行く

岡山理科大教授・石垣忍

50年前に発見、謎の巨大な腕



巨大ダチョウ型恐竜と判明

とにディノケイルス(恐ろしい手という意味)という学名がつけられました。

「ダチョウ型恐竜の腕みたい」「そんな巨大なダチョウ型恐竜はいないよ?」「まったく未知の仲間かも?」などと謎でした。

ところが2014年にモンゴル西部で、巨大なダチョウ型恐竜ディノケイルスのほぼ全身がそろった化石が見つかりました。その後国際チームで研究が進み、体全体のようなことが明らかにされつつあります。日本からは北海道大の小林快次先生が参加されていますよ。

今年の2月。私はたまたまモ



ディノケイルスの復元画(絵・ピャンバーツオクト)

まめちしき 豆知

一つの骨から… 恐竜研究は200年の歴史があり、多くの学者がいろいろな化石を研究して論文を公表しています。だから見つかった骨は腕だけでも、過去の研究成果と比較しておおよその種類を推定できます。ただ、ディノケイルスの腕はダチョウ型恐竜としては超巨大でみんな戸惑ったのでした。

ンゴルで足跡標本の写真撮影をしていたのですが、「ディノケイルスの骨の全部を並べたよ」と言われて見に行きました。全長10メートルぐらいで、すごい迫力でした。この標本は今年の夏に東京で特別展示されるそうです。発見から50年あまり後に謎が解けて全身骨格デビュー。何となくわくわくしますね。これが古生物学の面白いところ。私も日々そんな謎解きの喜びに満ちて仕事をしているんですよ。

さて、岡山でも今年の夏、7月13日から岡山シティミュージアム(岡山市北区駅元町)で特別展「よみがえる地球の覇者!! 世界大恐竜展」(岡山シティ

ミュージアム、RSK山陽放送、山陽新聞社主催)が開かれるそうです(9月1日まで)。全長27メートルのディプロドクスの全身骨格や、「ジェーン」の愛称がついたティラノサウルス亜成体のロボットなどが並ぶそうです。いろんな謎解きの成果を見たいところです。岡山理科大のモンゴルにおける最新の発掘成果も紹介しますよ。